

別紙 1 - 1

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 伊藤 信仁

論 文 題 目

Relationship between psoas muscle index and long-term survival in older patients aged  $\geq 80$  years after endoscopic submucosal dissection for gastric cancer

(80歳以上の高齢者におけるESD後長期予後とpsoas muscle indexの関連)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

小寺 泰弘

名古屋大学教授

委員

葛谷 雅文

名古屋大学教授

委員

安藤 雄一

名古屋大学准教授

指導教授

川嶋 啓揮

## 論文審査の結果の要旨

別紙 1 - 2

今回、当院で早期胃癌に対し内視鏡的粘膜下層剥離術(Endoscopic submucosal dissection; ESD)を行った 80 歳以上の早期胃癌患者において、長期生存に関連する因子の探索を行った。従来の報告にある、チャールソン併存疾患指数(Charlson Comorbidity Index [CCI])の低値に加えて、サルコペニアの指標であり、第 3 腰椎の CT 画像の腸腰筋面積から算出される psoas muscle index(PMI) 高値(男性 6.36 以上、女性 3.92 以上)が、早期胃癌に対する ESD 後の長期生存に関連する新たな予測因子であることが示された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 本研究で得られた PMI が高い高齢者の胃癌 ESD 後の予後が良く、PMI が低い高齢者の胃癌 ESD 後の予後が悪いという結果は、実臨床においては、ESD 施行するか  
の患者選択だけでなく、ESD が非治癒切除となった場合の追加外科切除を行うかど  
うかの際の、患者因子の指標としても有用であると考ええる。
2. 以前の研究で示されている CCI は本研究でも有意な因子として抽出されたが、栄養  
指数(Prognostic Nutritional Index [PNI])は有意な因子として抽出されなかった点  
は、既報では 85 歳以上のコホートが対象であったが、本研究では 80 歳以上が対象  
であり、コホートによる年齢の差異によるものと考えられる。
3. 80 歳以上の高齢者において、PMI のカットオフ値である男性 6.36 以上、女性 3.92  
以上に関しては絶対的な値かどうかについては、本研究では筋力の測定を行って  
おらず議論するには限界があるため、今後 ESD を行う高齢者に対し、PMI と筋力と  
を測定する前向き研究によって解決していく必要があると考える。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	伊藤 信仁
試験担当者	主査 小寺 泰弘		副査 <sub>1</sub> 葛谷 雅文	
	副査 <sub>2</sub> 安藤 雄一		指導教授 川嶋 啓揮	
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. PMIの実臨床における有用性について</li><li>2. 他の予後に関連する因子であるCCI、PNIについて</li><li>3. PMIのカットオフ値について</li></ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、消化器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				